

## 平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	路面電車ルネサンスの思想史的考察——ハレ市の路面電車の延伸過程を中心にして
報告者氏名・所属・職名	田村伊知朗・函館校・教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	田村伊知朗・函館校・教授
研究内容及び成果の概要	
<p>本研究は、文献読解とアルヒーフ資料読解から構成されている。第一に、1950～60年代の西ドイツにおける自動車中心主義、1980～90年代における路面電車ルネサンスに関する思想史的根拠を考察する。初期近代とは区別される後期近代の時代精神において、このパラダイム転換の意味を考察する。第二に、東ドイツの延伸過程が、都市アルヒーフ等のアルヒーフでの資料読解によって実証的に位置づけられる。</p> <p>(1) 文献読解</p> <p>まず、1950～60年代の西欧における自動車中心主義がなぜ生じたのかを解説した。特殊西ドイツの事情として、戦前のナチズムにおいて国民の意識に植え付けられた国民車の所有と、この国民車を帝国アウトバーンにおいて走行するという美意識に関する文献を読解した。また、当時支配的であったパクス・アメリカーナによる影響に関する文献を読解した。</p> <p>さらに、自動車中心主義に影響を与えた後期近代という時代認識に関する文献を読解した。その中心は、コンディリスの時代認識を確定することにある。この時代において人間は、自然的紐帯、労働現場における階級から解放され、消費者としての役割を全面化させる。自家用車が、消費構造における頂点に位置していた。</p> <p>次に、1980～90年代の西ドイツにおいて、路面電車ルネサンスが生じた。1970年代に道路、とりわけ都市中心街において自動車車両が溢れた。その結果、道路において渋滞が生じただけではなく。都市機能が、騒音、大気汚染、駐車場の増大等によって弱体化した。都市における構造変化は、後期近代における市民意識の変容をもたらした。同様なことが、統一直後の東ベルリン市とハレ市で生じた。両市での路面電車の延伸過程を考察した。</p> <p>(2) アルヒーフ資料の読解</p> <p>アルヒーフ資料の読解によって得られた見識は、都市構造の変革をともなう路面電車ルネサンスに関する政治的意義である。都市は州、ドイツ連邦国家と重層的構造に位置づけられている。都市の政策は、州そしてドイツ連邦水準における政策と密接に関連している。究極的には、市民的公共性に対する意識構造によって規定されている。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【著書】</p> <p>【学術論文】</p> <p>田村伊知朗「都市の構造全体と交通縮減の思想」を『交通権学会誌』に投稿し、現在審査中である。</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
国際地域学科専門科目「近代思想史」及び「近代交通思想史」の講義草稿の一部として、利用している。	
配布又はダウンロード可能な資料	無

問合わせ先

代表者： 田村伊知朗

電 話： 0138-44-4261

FAX : 無

mail : 本学のホームページ上に掲載されている「研究者総覧」の私に対する「お問い合わせ欄」から、投稿してください。